

東海農政局業務説明会

～手にとって さとの恵み～

東海農政局

農林水産省
東海農政局

目次

1. 農林水産省についてP. 3
2. 東海農政局についてP.10
3. 採用・キャリアパスについてP.14
4. 人材育成についてP.18
5. 待遇・支援制度についてP.20
6. 職員からのメッセージP.26
7. 参考資料P.30

1. 農林水産省について

VISION STATEMENT

ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、

いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を

未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

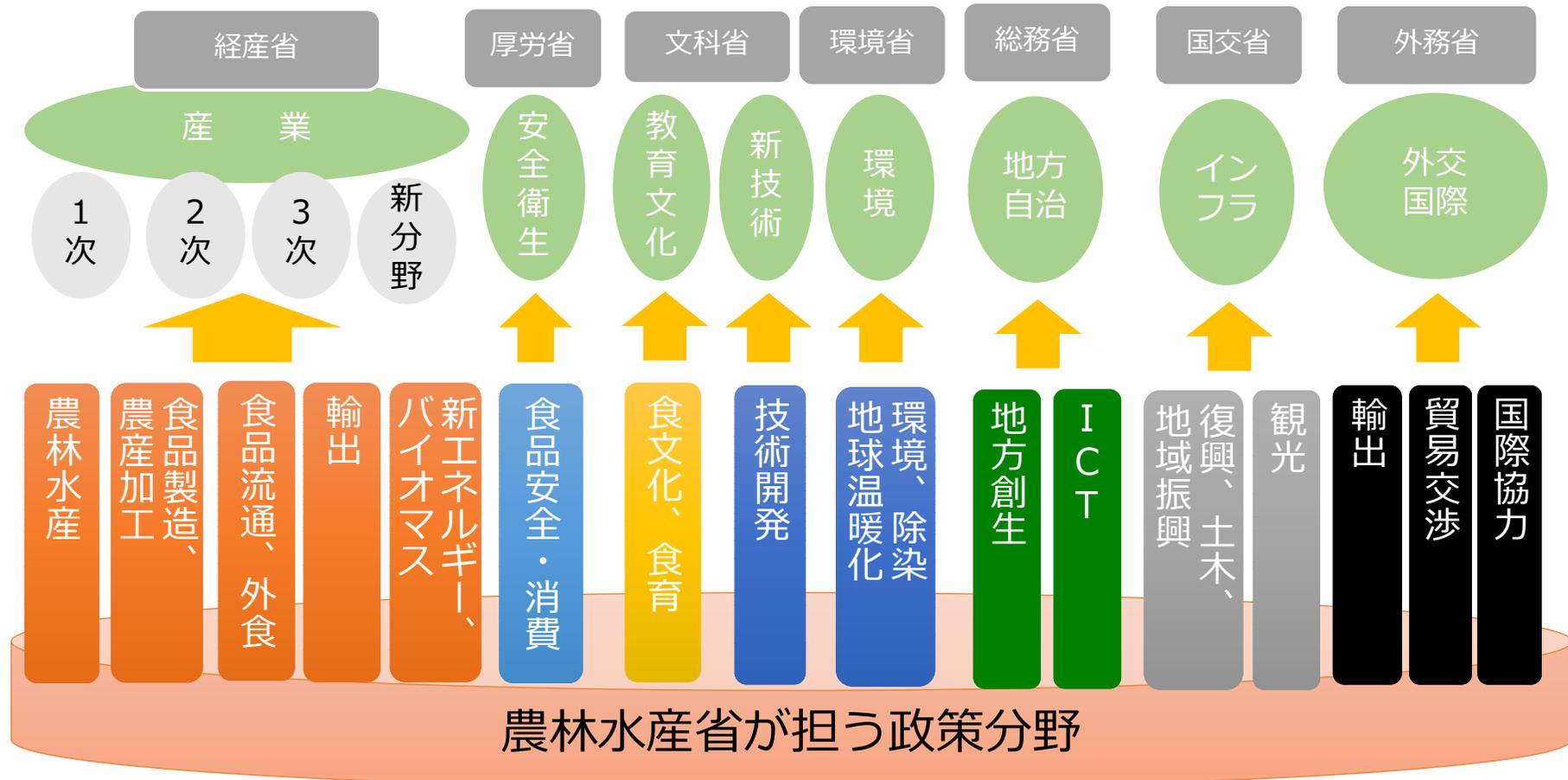
常に国民の期待を正面から受けとめ

時代の変化を見通して政策を提案し、

その実現に向けて全力で行動します。

農林水産省が担う政策分野

▼農林水産省は、「食」を中心に、産業政策、地域振興、インフラ、文化、外交等の幅広い政策分野を総合的に担うため、「**総合政策官庁**」と呼ばれています。



農林水産業を取り巻く課題

農林水産業を取り巻く現状と課題



食料自給率の低下

- 長期的に低下、近年は横ばいで推移
- 先進国の中でも日本は最低の水準



国内市場の縮小 海外市場の拡大

- 人口減少に伴い国内市場は縮小する一方、世界の人口の増加により海外市場は拡大傾向



農業従事者の減少・高齢化

- 基幹的農業従事者の平均年齢は **67.8歳**
- 各国の農業従事者と比較しても日本の高齢化率は顕著



新規就農者数

- 49歳以下の新規就農者数は2万人程度で推移

農林水産省の政策



食料の安定供給の確保

- 過度な輸入依存からの脱却に向けた構造転換対策を講じ、食料安全保障強化政策大綱を策定し、食料の供給基盤の強化を図る



農林水産業の輸出強化

- GFP(農林水産物・食品輸出プロジェクト)では、輸出に向けてサポートを実施



スマート農業

- 減少する労働力を補うために、ロボット技術等を活用
- スマート農業実証プロジェクトでは全国205地区が採択された



みどりの食料システム戦略

- 革新的な技術・生産体系を開発することで農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現

2. 東海農政局について



東海農政局・・・農業政策を **岐阜・愛知・三重** で実施

農林水産本省で企画・立案した政策を適切に実施し、
地方公共団体等との情報交換等を生産者や消費者に
より近い現場で実行する

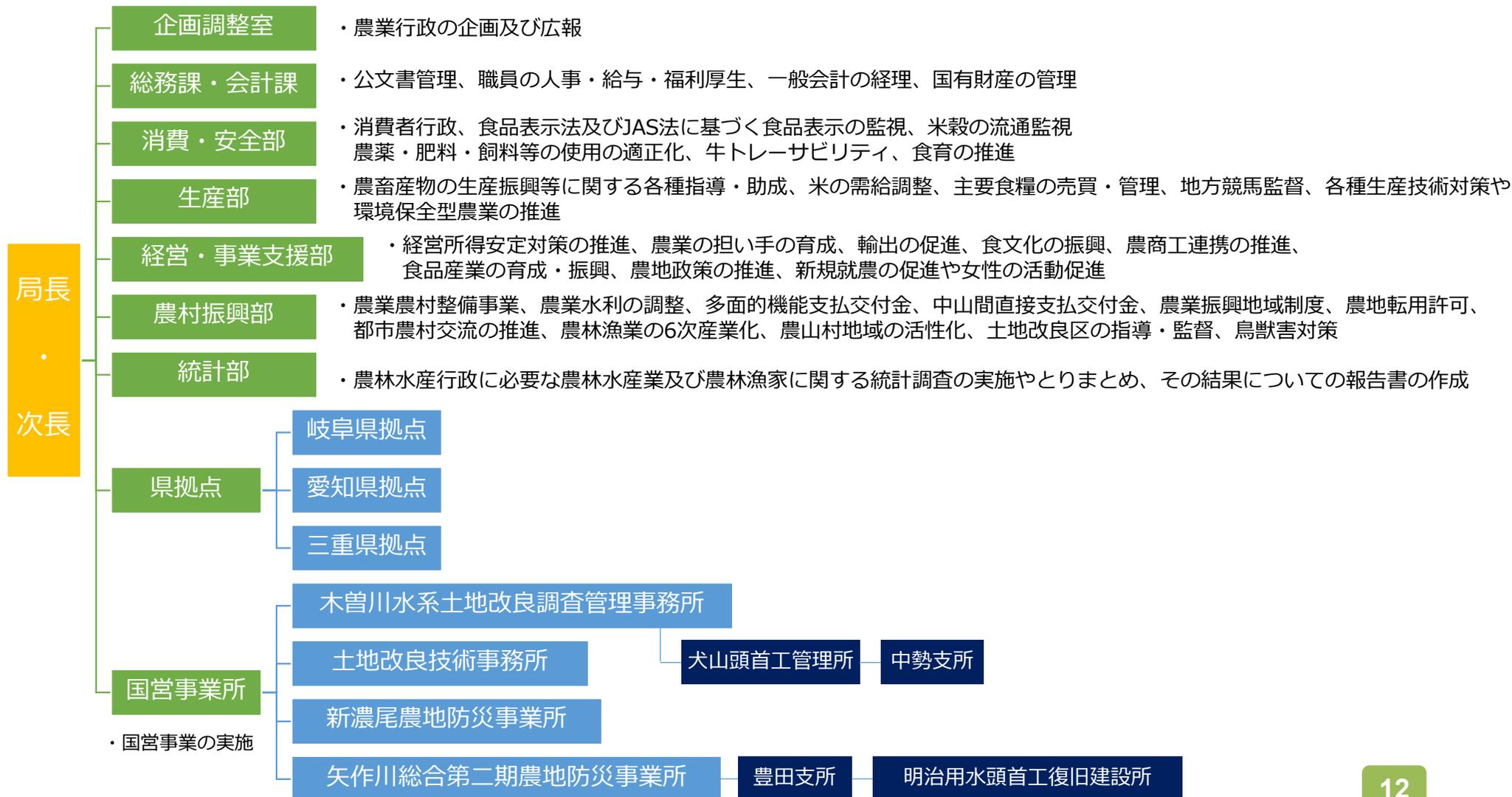
全国7ヶ所（仙台市、さいたま市、金沢市、名古屋市、京都市、岡山市、熊本市）に設置されている地方農政局の1つで、岐阜・愛知・三重の3県を管轄しています。



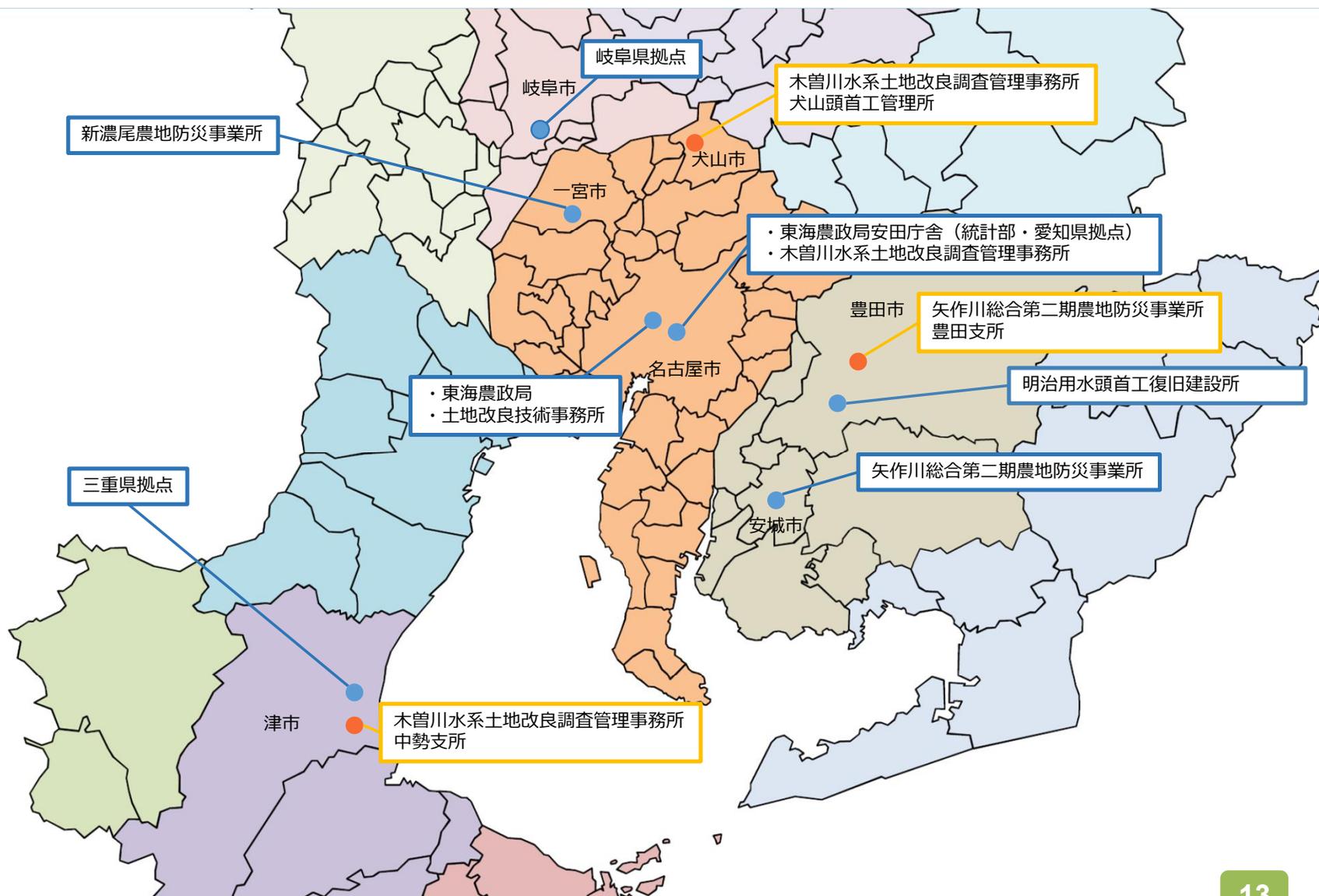
東海農政局の組織

令和5年4月1日現在

東海農政局



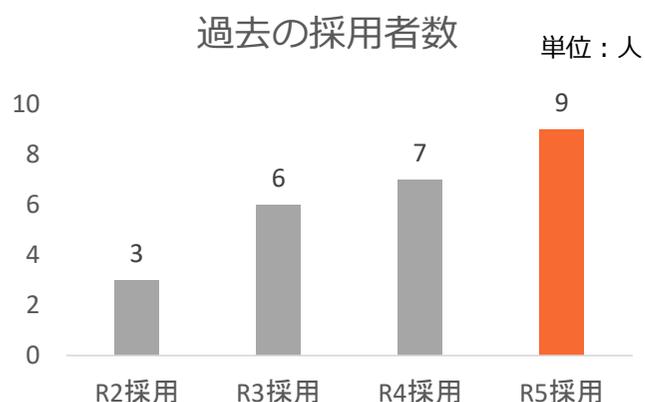
東海農政局管内地図（令和5年4月1日現在）



3. 採用・キャリアパスについて

採用について

採用者数



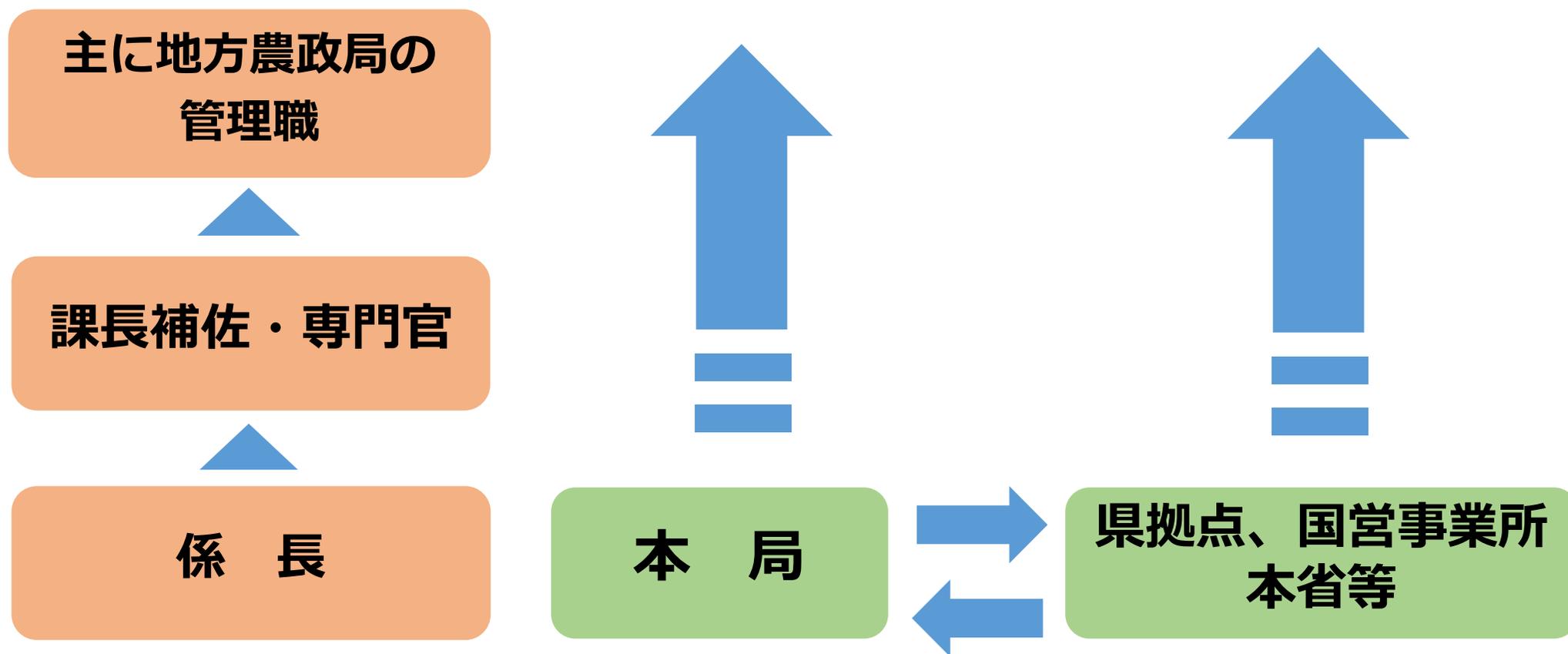
- 令和6年度採用予定者数は **14** 名程度
- 採用予定時期は原則2024年4月1日
(採用者の事情を配慮しますので、ご相談ください。)
- 令和2年に経験者採用を始めて以降 **退職者ゼロ**

応募資格

大学、短期大学、高等専門学校若しくは高等学校を卒業した者及びこれらと同等以上の学力を有すると認められる者で、一定の職務経験（2023年4月1日現在で、大学を卒業した者は8年以上、短期大学及び高等専門学校を卒業した者は11年以上、高等学校を卒業した者は14年以上）を有する者。

一般職事務系のキャリアパス(例)

- ・農政局と各県拠点等を中心におおむね**2年程度**で異動します。
- ・本人の適性と希望等があれば本省や他農政局での活躍の途も開かれています。



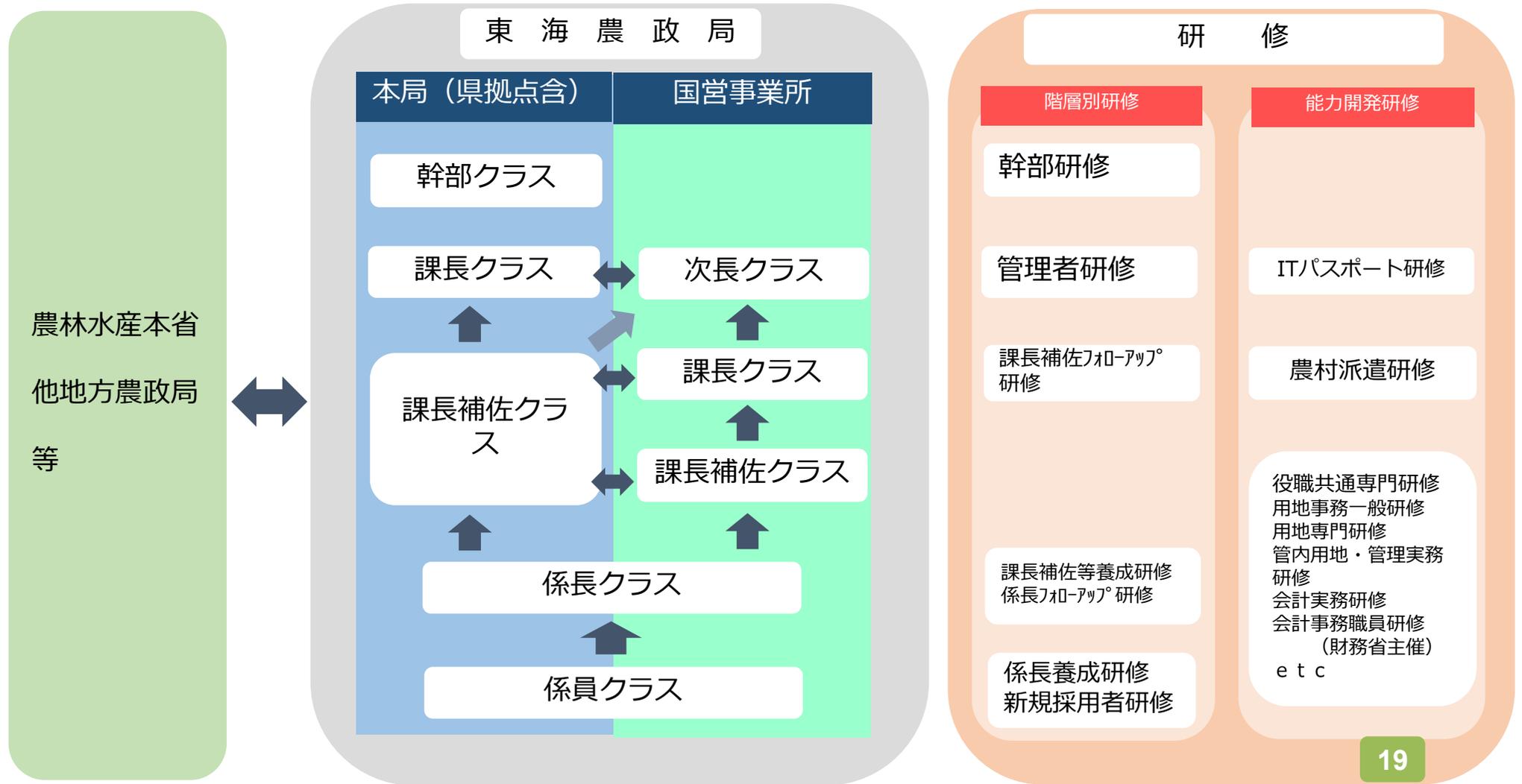
農村振興事務系との比較

▼本人の希望に合わせて、主に事務の運営管理業務を担当する事務系と、土地改良事業に必要な土地の借地や補償などの業務を担当する農村振興事務系のどちらかで採用されます。

	事務系	農村振興事務系
業務内容	<p>職員の人事・給与・福利厚生、一般会計の経理、国有財産の管理等の事務など、組織を円滑に運営するための「行政の運営管理業務」又は農業政策全般の実施業務を担当</p> 	<p>土地の買収、支障となる建物・物件等の移転、農業農村整備事業（土地改良事業）に必要な土地の借地や補償等</p> 
主な配属先	東海農政局本局、東海管内事業所又は各県拠点の庶務・経理担当	東海農政局農村振興部用地課、水利整備課（管理調整）、管内事業（務）所、又は農村振興部の他の課
	<p>本人の適正、希望等次第で農林水産本省や地方農政局の異動も可能！</p>	
キャリアパス (例)	 <p>基本的に同じ！</p>	

4. 人材育成について

研修制度



4. 待遇・支援制度について

待遇について①

給与例（係長相当）

年齢	給与月額
37歳 22歳で大学卒、民間企業歴（事務職・正社員・15年勤務）	約 28 万円
33歳 20歳で短大卒、民間企業歴（事務職・正社員・13年勤務）	約 25 万円

（注1）上記給与例に地域手当（名古屋市の場合、15%）は含まれておりません。

（注2）上記給与例は、参考値であり、実際の算定に当たっては、個人の経歴や業務内容を踏まえて算定することとなります。

諸手当

- 扶養手当
- 住居手当
- 通勤手当
- 単身赴任手当
- 超過勤務手当など

賞与（ボーナス）

期末手当・勤勉手当
（年2回（6月、12月）
年間4.3月分）

昇給

年**1**回（1月）

待遇について②

勤務時間

◆8:30～17:15

(7時間45分勤務)

※部署により異なる場合あり

◆名古屋市内は

①8:30～17:15

②9:00～17:45

③9:15～18:00

の3パターンから選択可能

休日・休暇

◆休日

土曜日・日曜日・祝日・年未年始
(12月29日～翌年1月3日)

◆年次有給休暇

年次有給休暇20日/年

※4月1日採用の場合、採用の年
は15日

※1時間単位での取得も可能

◆特別休暇

夏季休暇(3日間)、結婚休暇、
忌引休暇など

福利厚生

◆公務員宿舎

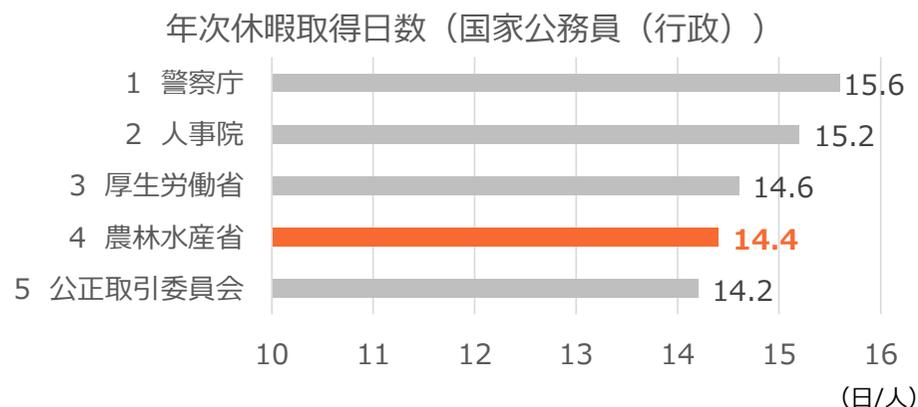
◆診療所(東海農政局本局のみ)

◆健康診断・各種共済制度など

職員の働き方(ワークライフバランス)

○ 年次休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で4番目**



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト

○ 年次休暇の取得状況

本省 (常勤職員)	12.0日
地方機関 (常勤職員)	15.8日
合計	14.8日

※令和3年における、職員一人当たりの平均年次休暇使用日数
出典：農林水産省HP

○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**
(国家公務員テレワーク取組状況等調査より)



○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

本省 (常勤職員)	25.0時間
地方機関 (常勤職員)	6.5時間
合計	11.1時間

※令和3年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

各種支援制度

詳細はこちら →



東海農政局

産前産後 休暇

- 6週間以内に出産する予定の場合、及び出産の翌日から8週間を経過するまでの期間で取得可能

育児時間

- 子が小学校就学の始期に達するまで、子を養育するために認められる短時間勤務

育児休業

- 子が3歳に達する日まで、子を養育するために認められる休業

介護休暇

- 配偶者、父母、子等で負傷、疾病又は老齢により2週間以上にわたり日常生活を営むことに支障がある者の介護をする場合に取得可能

男性職員 の育児参 加休暇

- 妻の出産予定日の6週間前の日から出産の日以後1年を経過する日まで5日以内で取得可能

早出遅出 出勤

- 育児・介護又は修学する職員が勤務時間帯をずらせる（早出又は遅出）制度

ワークライフバランス

- 男性・女性職員ともに、生き生きと輝ける働きやすい環境づくりに取り組んでいます。
- たくさんの先輩が両立支援制度を活用し、仕事も家庭も充実した生活を送っています。

- ・農林水産省における育児休業の取得率について、**女性職員は100%**で推移しています。子どもが生まれた**男性職員は「1ヶ月以上育児に伴う休暇・休業を取得する」**ことが前提となり、省全体で男性の育児休業取得を推進しています。
- ・短時間勤務、テレワーク、フレックスタイム制を活用し、両立している職員も多くいます。

（例）育児と両立する場合

【女性】出産～育児休業

- ・産前休暇（産前6週間前から出産の日まで）
- ・産後休暇（出産の翌日から8週間）
- ・育児休業（子が3歳に達するまで）

【男性】配偶者の出産～育児休業

- ・配偶者出産休暇（出産時の付き添いで2日）
- ・育児参加のための休暇（妻の出産予定日の6週間前の日から出産の日以後1年を経過する日まで5日）
- ・育児休業（子が3歳に達するまで）

【育児休業復帰後】仕事と育児の両立

- ・育児短時間勤務（通常よりも短い勤務時間で勤務）
- ・子の看護休暇（年5日）
- ・テレワーク、フレックスタイム制



5. 職員からのメッセージ

選考採用職員からのメッセージ（1/2）



R4入省
企画調整室

現在の業務内容

東海農政局のWebサイトの最終承認者として、各部より承認依頼が届いた新規・更新ページを管理しています。また、Webサイトページの作成に当たり、相談窓口として操作案内なども行っています。併せて、**メルマガ「とうかいほっとメール」**の配信業務として、各部より東海農政局管内でのイベント等や東海農政局として一般読者に届けたい情報を集約し、基本的に毎月1回発行しています。また、農林水産省公式YouTube「**BUZZ MAFF（ばずまふ）**」で東海農政局管内の農林水産業、農山漁村、特産品などの魅力を「でらTOKAI」として月1回程度撮影・編集し、紹介しています。

志望動機

友人が東海農政局に在籍しており職場の雰囲気が良いなど、とても楽しいと話していました。**どんなに魅力がある仕事でも職場の雰囲気が悪ければ仕事をしていく上で、上手くいかないことがある**と思っていました。また、以前の職場は人間関係も良好でとても楽しく仕事をしていましたが、新型コロナウイルス感染症が出始めてから、普段できていたことが制約され、今まで当たり前だと思っていたことがもろく・弱かったことを痛感しました。コロナ禍でいろいろと考える時間が増え、**将来の不安など葛藤もあり、新しいことにチャレンジをしようと決めました。**「農林水産省」の業務内容等を調べると、今まで知らなかった「食」に関して知ることができ、仕事として携わりたいと東海農政局へ応募しました。

職場の雰囲気

職場の皆さんは、とても優しく分からないことがあれば気軽に質問ができ、一緒に考え解決策を見つけ最後まで見守ってくれます。**風通しの良い職場環境です。**

皆さんへメッセージ

業務に関しては、数年ごとにジョブローテーションがあり、覚え始めたころに異動となります。そのため、初めて携わる仕事の方のために引継資料が細かく作成されていますので安心でした。また、**転職したばかりの頃は民間との違いに戸惑いましたが、職場の皆さんが丁寧にいろいろと教えてくださり、自分でも思った以上に早く仕事に慣れることができました。**休暇については、取得しやすい環境です。1時間単位で年休を取得することができ、仕事の裁量では当日でも取得できます。また、年休以外に夏季休暇（3日間）が付与されていますので、**年休と合わせて長期休暇の取得も可能です。**



R3入省
生産部
生産振興課

生産部で「**みどりの食料システム関係**」と「**総務事務全般**」の業務を担当しています。

入省前は、農業に全く関わりのない事務作業を行う民間企業で仕事をしていたのですが、自宅の家庭菜園で収穫した野菜や果物を家族が美味しく食べている姿を見て「**食や農業を支えられる仕事をしてみたい**」と思ったのが転職のきっかけです。それから転職先を探す上で、東海農政局であれば、東海地域で食や農業を幅広く支えられるのではないかと考え、東海農政局への転職を決めました。

入省後、2つの課を経験していますが、どちらもベテラン職員が多く、分からないことを質問すれば「昔はこうだったけど、今はこうなっている」など、**過去の経緯から丁寧に教えてもらえる優しい雰囲気の職場です。**また、どの職場も「若手に色々な経験をしてもらいたい」と考える上司も多く、若手育成にも力を入れてもらっている雰囲気もあります。

選考採用で入省されるみなさんは、民間と国、双方の立場を理解できる貴重な人材だと思います。民間で培ったスキルを活用し、双方の架け橋のような存在となれば、大いに活躍できるフィールドが農林水産省および東海農政局にはあります。一緒にお仕事ができる日を楽しみにしています。

選考採用職員からのメッセージ (2/2)



R5入省

経営・事業支援部
輸出促進課

現在の業務内容

農林水産物・加工食品の海外輸出にかかる補助事業の事務手続き、事業者や各関係機関との調整業務、輸出促進に関する情報発信等を行っています。

志望動機

新卒で就職してから気づけば中堅という立場にあり、今後どのように働いていきたいかを深く考えるようになりました。その中で、**新たな環境でチャレンジしてみたい**という想いが強くなりました。また、**家庭持ってから今まで以上に「食」への意識が高まり**、食の安全や安定供給、日本食の魅力に関心を寄せるようになっていたところ、東海農政局の選考採用について知り、挑戦するに至りました。

職場の雰囲気

分からないことがあれば、職場内の上司や先輩、後輩が丁寧に教えて下さるので、気兼ねなく聞くことができます。**チーム単位でコミュニケーションを図って業務を進めていくことが多いので、一人で抱え込むことなく、相談しながら進められることも安心できます。**

皆さんへメッセージ

現在の仕事をしながら、または、家事や育児をしながら転職活動をするのは、たやすいことではないと思います。しかし、新たなチャレンジをしたいという強い想いがあり、国家公務員として働くご自身の姿を少しでも想像できるならば、是非チャレンジしてみてください。一緒に働けることを楽しみにしております！



R4入省

経営・事業支援部
農地政策推進課

都道府県における農地の中間的受け皿組織である**農地中間管理機構（通称農地バンク）**に関する業務を行っています。農地中間管理機構を活用することで、農地の集積・集約化をして効率良く農作業をすることができる、複数農地を貸し借りする場合は窓口の一本化ができる、急に耕作ができなかった場合にスムーズに他の人へつなげる可能性が高いなど、様々なメリットがあります。農水省では、農地中間管理機構をより活用いただくための様々な補助事業を用意しています。主に東海3県における補助事業に関する事務手続きを担当しており、また、もっと多くの方に農地中間管理機構を活用いただくための事業推進・周知などを行っています。

私は今までの人生の中で「行政に多く助けられている」という思いを持っていたので、**いつかは自分も行政を担う側に立って誰かの役に立ちたい**という気持ちがありました。そんななかで、東海農政局の職員募集を知り、自分の職務経験を生かして国民の皆様の食を支える仕事ができるならばぜひやってみたいと思い転職に至りました。

職場の先輩方は優しい方ばかりです。業務は決して簡単なものばかりではないので、悩みながら試行錯誤しながら業務を遂行する毎日ですが、周りの方は行政事務や農業に関する知識が豊富な方ばかりなので、**業務に関してはもちろん、東海地方の農業の特色や農政の成り立ちなど様々なことを教えてもらっています。**

私は今まで農業に携わる業務経験がありませんでしたが、今までの職務経験を活かせる部署に配属していただき、知識を生かしながら日々の業務を行っています。農政局の業務は幅広いので、あなたの職務経験を活かせる業務がきっとあります。農業や食に興味のある皆様、あなたの職務経験を生かして一緒に日本の将来の食を支える仕事をしませんか？

ご覧いただきありがとうございました！

何か分からないことがあれば、お気軽にお問い合わせください！

問合せ先

担 当	東海農政局総務課 人事第1係 丹慶、近藤
電話番号	052-223-4613
メールアドレス	jinji_tokai@maff.go.jp
Webページ	https://www.maff.go.jp/tokai/somu/jinji/recruit/index.html

東海農政局採用ページはこちら



BUZZMAFFはこちらをチェック！



農水省職員がYouTuberに！？

登録者数15万人以上！

